

研究テーマ	〔I 造形教育で培う力を考える〕 自分の思いやイメージをつくる喜びを感じながら、自分らしい表現を探求する力を育てるための題材の工夫 ～伝え合う場の設定と工夫を通して～
-------	--

北茨城市立平潟小学校 教諭 菅野 京子

1 研究テーマについて

造形教育で培う力とは、図画工作科の目標に具現化されている4つのキーワードに他ならない。児童が自らの「感性」を生かして、素材や題材と五感を使ってかかわり、自分が次にどのような形をつくり出していくかを考える過程そのものが造形活動である。

活動そのものにも「つくりだす喜び」があるが、かかわりによって生まれた自分の思いやイメージが、漠然としたものからよりはっきりとした形になり、それがよさや美しさにつながるとき、児童は強い満足感、達成感を感じる。

さらに、自他がつくりだしたのを見たり、自分の思いを伝えたり友人の話の話を聞いたりすることで、自他のよさに気づき、よりよい価値にむかっていく思いや心情が育ち、「豊かな情操」をはぐくむこととなる。そして、こうした営みは「造形的な創造活動の基礎的な能力」によって支えられてこそ可能となる。1)

造形活動は、言い換えれば、「ものづくりや作品の鑑賞を通して、新たな自己と出会い、さらなる自分らしさを培っていく活動」2)であり、自分らしさを探求し表現する営みであるといえよう。

ここでは、造形活動において、自分の思いや見方、感じ方を大切にし、自分らしい表現を「つくりだす喜び」を感じながら、よりよい表現を探求する力を培うことが造形教育の役割であると考えそのための授業の在り方を研究していく。

その手立てとして、イメージマップを活用し、児童の思いを漠然とした形からより具体的なイメージにまで広げ、アイディアスケッチをていねいに作り上げることを通して、作品づくりの原動力としたい。それとともに、製作活動において最初から最後まで集中し、楽しみながら表現活動に取り組むことができるようにしたい。

また、「自分らしさ」は、気ままにいい加減に表現することではないことを押さえ、多様な表現方法や、材料や用具の特徴を知り、適切に扱うことなど基礎基本を大切にする。

さらに、自分らしい表現を探求するには、「つまずきや戸惑いを自他の表現に生かし、還元しようとする力」や「伝え合うことで、自他のよさを認め合う力」が不可欠となる。

そこで、題材を工夫し、学習過程全体を通して、思いを伝え合う場を設定した授業づくりを行い、テーマに迫りたい。

2 実践例

(1) 題材名 第4学年「ふしぎな森」に行こう

(2) 題材の目標

- 自分の行ってみたい「ふしぎな森」を雰囲気や表したい感じをもとに、自分らしい表現を工夫し、意欲的に創作活動に取り組むとともに、自分や友人の作品を見て、よさやおもしろさに気づき、多様な感じ方や表現の仕方を感じ取ることができる。

(3) 題材について

ア 題材観

本題材は、学習指導要領の中で、主にA表現(2)ア「感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけて表すこと。」及びウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」に関する内容である。また、B鑑賞(1)ア「自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。」に関連している。具体的には、自分の行ってみたい架空の「ふしぎな森」を想像し、絵の具のぬり方を工夫したり、わりばしペンや切り紙などの描画材を組み合わせることで、自分なりの表し方を工夫する題材である。また、製作前、製作途中、作品完成後に「伝え合いの場」を設けることにより、表したい思いやイメージ、表現の工夫、仕上げるまでの思いなどを、伝え合うことで、構想を広げ、表現を高めていけるものとする。

自分なりの「ふしぎな森」を想像し、自分の思いをふくらませることが、楽しい作品づくりに

つながり、大胆さ、緻密さ、明るく基気な感じ、暗いが味のある感じなど、児童のよさや多様な個性が発揮できる題材だと考える。

さらに共通事項（１）ア「自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。」を単元を通しておさえたい。

イ 児童の実態

本学級の児童は、「図工が好き」と答える児童がほとんどであり、自分なりに試行錯誤を重ね工夫をして、意欲的に表現活動を行っている。その一方で、「作品づくりが思うようにいかない。」「（自分は）へただ。」「どうやったらいいかわからない。」「図工はむずかしい。」と戸惑ったり、つまずいたりして自信のない様子もうかがわれる。これは、中学年の特徴として、客観的なものの見方・感じ方へと移行したことで、客観的に自分の作品を見ることができ、表現したい思いと作品の出来のギャップに悩む時期だということに起因している。

「先生、これでいいですか」という児童の発言は、さらによりよいものを目指したいと考える児童の意欲の表れであるにとらえ、多様な感じ方・見方があることを実感させることが、自分らしい表現を探求する力となるのではないかと考える。

ウ 指導観

この単元では、まず、「ふしぎ」という言葉を基にイメージマップづくりを行い、それから考えられる色や受ける感じをまとめ、話し合う。さらに、つくりたいイメージに合う植物や生き物の形や色などを考え、自分なりの「ふしぎな森」に関するお話をつくって伝え合うこととした。

次に、表現の方法や、材料・用具の特徴や適切な扱い方などの基礎基本を押さえることで、自分自身がこれでいいと満足できる表現につながれることを実感させることが重要であると考えた。そのために、水彩絵の具の使い方や混色の仕方、形や色から受ける感じや形や色の組み合わせ、紙の性質、わりばしペンの製作と活用などを指導し、表現の幅がもてるようにする。

また、製作途中でもお互いの作品を見合ったり、表現の工夫を教師が例示したりすることで、どういう表現があるか、自他の作品のよさから感じ取れるようにする。自分自身では「思いとあっていない」「うまくいっていない」「失敗した」と感じていた表現についても、他の児童との交流において、「まねしてみたい」「いい感じ」ととらえられるなど、伝え合うことにより、よさが自分の中にフィードバックされる。表現と鑑賞が相互に作用し合うことにより、作品づくりに向かう意欲が向上し、喜びと安心感をもって創作活動に没頭できると考えた。そして、自己の表現も他者の表現も大切にできる児童を育てることが、自他を認め合い、豊かな情操を育てることにつながると思う。

（４）題材の評価基準

図工への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の行ってみたい「ふしぎな森」を雰囲気や表したい感じをもとに、自分らしい表現を見つけようと、意欲的に創作活動に取り組んでいる。	「ふしぎな森」のテーマや自分の表したいことをどのように表すか考え、イメージをふくらませて、森の植物や生き物などの形や色を考えている。	「ふしぎな森」の植物や生き物などを絵の具や切り紙などを組み合わせ、自分の思いや表現しようとするイメージにあった表現の仕方を工夫している。	自分や友人の作品を見て、よさや面白さに気付き、多様な感じ方や表現の仕方を感じ取ることができる。

（５）指導と評価の計画（９時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準【評価方法】
第１次 ①	・自分のつくりたい「ふしぎな森」についてイメージマップを作る。	・自分の想像したイメージに合う言葉を探しイメージマップをつくり、自分なりの「ふしぎな森」について考えることができる。 関 【イメージマップ・発表】 ・自分なりの「ふしぎな森」のイメージに合う生き物や植物などの形や色を考え、表している。 構 【アイディアスケッチ・発表】
②	・つくりたいイメージに合う植物や生き物の形や色などを考え、「ふしぎな森」に関するお話をつくって伝え合う。	
第２次 ③	・自分で考えた「ふしぎな森」のお話を基に、下書きをする。	・アイディアスケッチを基に、「ふしぎな森」の全体をイメージして下書きをかくことが

		できる。 構【観察・作品】
④	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の特徴を生かして、イメージにあったバックの色を塗る。 わりばしペンを作り、いろいろな線を使って植物や生き物をかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の使い方を理解し、自分の「ふしぎな森」のイメージにあった色を塗ろうとしている。 技【観察・作品】
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの「ふしぎな森」のイメージに合う植物や生き物をかき入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふしぎな森」の植物や生き物などをいろいろな形や色を組み合わせる表現しようとしている。 技【観察・作品】
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 表現したいイメージを伝え合い、お互いのよいところや自分の表現にとりいれたいところについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりの途中で自他の作品を見せ合い、表現の工夫やよさや面白さ、表したい感じや思いについてとらえている。 鑑【発言・観察】 話し合いを通して、さらに発想を広げ作品づくりに取り組もうとしている。 関【観察・ワークシート】
⑦	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作りたいイメージをふくらませ「ふしぎな森」にある植物や生き物などの形や色を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や自分のイメージにあった表し方になるように、わりばしペンや絵の具の使い方を工夫するなどしている。 技【観察・作品】
⑧	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの「ふしぎな森」の全体の仕上がりを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したい感じに合わせて、絵の具や切り紙などを工夫して使ったり、形や色を組み合わせたりして、自分なりの「ふしぎな森」を作ろうとしている。 関【観察・作品】
第3次 ⑨ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 仕上がった絵を見せながら「ふしぎな森」の物語を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が考えたことを話したり、友人の話を聞いたりしながら、自他の表現のよさやおもしろさについてとらえている。 鑑【発言・観察】 話し合いを通して、さらに発想を広げ、これからの作品づくりに生かそうとしている。 関【観察・付箋・ワークシート】

(6) 本時の展開 (第9時)

◇目標

- 仕上がった絵を見せながら「ふしぎな森」の物語の発表を通して、自分が表現したい「ふしぎな森」のイメージについて伝え合い、お互いの表現の工夫やよさや面白さ、表したい感じや思いについてとらえることができる。

◇準備・資料

作品・アイディアスケッチ・イメージマップ・付箋・ワークシート・発表マニュアル

◇展開

学習活動・内容	指導上の留意点 評価(□) 発問
1 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの取り組みを賞賛しながら、よりよい作品づくりに向けてどういう取り組みができるか投げかけ、振り返ることができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友人の作品を見ながら、「ふしぎな森」の物語の発表を聞いて、よさや工夫しているところについて話し合い、イメージに合った表現の仕方について考えよう </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 出来上がった作品を見ながら、一人一人違った「ふしぎな森」のお話を聞いて、友人の作品で、よいところやおもしろいなあと思うところや表現を工夫しているところなどをさがして付箋にコメントを書きましょう。 また、自分の作品に取り入れたいところや </div>

<p>2 グループで、作品を見せ合いながら、話し合う。</p> <p>(1) 自分の作品を見せながら、表現したいイメージや、かいた絵に関する物語について発表する。</p> <p>(2) 友人の作品を見て、よいところやおもしろいところや表現を工夫しているところについて付箋にコメントを書き、表現の工夫について発表する。</p> <p>3 話し合いを基に、これまでの活動を振り返り、気付いたことや、これからの自分の作品づくりに生かしたいこと、もっと工夫したいことなどについて考え、ワークシートに書く。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>作品をよりよくするために、気付いたことについて話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席の隣、前後の児童とペアを作り、効率的に話し合うため、進め方のマニュアルを提示する。 ・アイディアスケッチやイメージマップを参考に、現在描いている作品に表したいイメージや思いについて各自2～3分程度発表する場面設定をする。 ・聞き手は作者の思いを受け止め、よいところや面白いと思った表現についてコメントを付箋に書いて相手に渡すこと、合わせて、自分の作品に生かしたい表現などを伝える場であることを説明する。 ・受け取った付箋は、各自のワークシートに貼り、自分のふりかえりに生かすように助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鑑 作品づくりの途中で自他の作品を見せ合い、表現の工夫やよさや面白さ、表したい感じや思いについてとらえている。 【発言・観察】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい表現のための視点(形や色はどうか、組み合わせはどうか、かき足すところはないか、ほかの表し方と組み合わせるかなど)を掲示し、話し合いの途中でも見られるようにしておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>関 話し合いを通して、さらに発想を広げこれからの作品づくりに生かそうとしている。 【観察・ワークシート】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、自信がない児童の絵や、前時までの活動で「うまくいかない」と言っていた児童の絵について取り上げ、具体的にほめ、意欲をもたせるようにする。 ・作品のさらによりよい表現のための視点をまとめ、次時の活動に意欲をもたせる。
--	--

3 成果と課題

(1) 成果

- 「ふしぎ」という言葉は、それだけで魅力的である。また、国語の学習で、金子みすずの詩を各自が不思議に思っていることでアレンジする活動を行っていたので、さまざまな広がりをもった活動につながると予想していたが、子ども達は非常によく取り組んでいた。

最初から最後まで集中し楽しみながら表現活動に取り組むためには、魅力的で、幅のある題材が大切であると実感した。

- 製作の始めの段階で、構想がまとまらずにいつも時間がかかっていた児童も、段階を追ってイメージマップやアイディアスケッチを作成することで、自分の作りたい感じや表現したいイメージがまとまりやすくなり、意欲的に構想することができていた。自分でかいた「ふしぎな森」についてかいた物語を伝える表情がとても生き生きしていた。

- この題材に入るまでに、モダンテクニックの表現方法や、水彩絵の具の使い方や混色の仕方、材料・用具の特徴などの基礎基本を押さえることで、児童自身が「これでいい」「これを試そう」と自信をもって楽しく表現することができたと考える。アイデアスケッチを基に八つ切り画用紙で試作したことや、自作したわりばしペンを使って、墨汁でさまざまな線を使って表現したことは児童の意欲を高めることができた。わりばしペンによる描画は、子ども達のお気に入りの表現方法の一つになり、いろいろな作品で活用された。
- この題材に前後して、国語で学習した「ごんぎつね」の物語に出てくるヒガンバナや、紅葉した桜の葉をわりばしペンでかき、水彩絵の具で彩る活動では、経験を生かし熱心な取り組みが見られた。
また、振り返りでは、「よくできた」「いい感じにできた」という満足感に満ちた発表が多く聞かれ、実際に技能も向上し、作品の仕上がりに変化が出ている。
紙の特徴、水彩絵の具の混色、重色、バックの色の選び方など手順を追って指導した成果と考える。
- 製作開始時、製作途中、作品の完成後と、学習過程全体を通して、思いを伝え合う場を設定した授業づくりを行ってきた。さらに、活動中も自然とお互いの作品を見合い、さまざまな表現を「まねしてみたいな。」「いい感じだね。」と友人と情報交換したり、時には、「こういう感じにしたいけど、どうだろうか」と意見を求めたりアドバイスし合ったりする姿が見られた。
- 自分自身ではつまづいたと感じていたことについても、他の児童との交流の中で肯定的にとらえてもらったことが喜びとなり、「これでいいんだ」という自己肯定感や自信につながっていった。その結果、お互いを認め合う力、関わり合うコミュニケーション力が自然と高まり、今後「豊かな情操」へとつながっていくと考える。

(2) 課題

- イメージマップやアイデアスケッチなど学習の過程で作成したものや、振り返りで各自がもらった付箋などは、特定の枠を作らず、白紙にその都度指示をして作成させた。より効率的、効果的に活動するためには、フォーマットのあり方を工夫していく必要があると実感している。さらに、児童の学習の足跡を散逸させずにポートフォリオとして蓄積することが、よりよく自分らしい表現を探求する力につながると思う。また、年間を通じて、こうした取り組みを計画的に行い、題材づくりをさらに工夫していきたい。
- 本題材は、9時間扱いであったが、基礎基本の指導や練習、それぞれの「ふしぎな森」に関する物語づくりに多くの時間を要してしまい、年間計画の調整を余儀なくされた。
年間を通して、図画工作科の基礎基本、共通事項をどのように整理し、年間計画に位置づけるかを考え、ミニ素材・題材などとして集約し取り組むなどの工夫が必要であると感じた。

【引用文献・参考文献】

- 1) 小学校学習指導要領解説 図画工作編 P 40～43 H20年8月 文部科学省
- 2) 小学校プロ教師に学ぶ図画工作科授業の基礎技術Q&A H24年8月 西村德行編著
P 97「あとがき」より 東洋館出版社
- 3) 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】 H23年10月 文部科学省
- 4) 評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 【小学校 図画工作】
H23年11月 国立教育政策研究所
- 5) 小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり図画工作 H20年11月 藤江充・辻政博編著
東洋館出版
- 6) まるごと図画工作 4年 H22年4月 服部宏ほか著 喜楽研
- 7) 学級担任の図工授業完べきガイド H24年5月 竹井史編著 明治図書

【子どもの作品】

(A) 八つ切り画用紙による習作



(B) 四つ切り画用紙による完成作品



○ 「ふしぎな森」 についての物語・説明

(左) あるとき、まいごのまいごのあかんぼうがいました。そのとき、けいじばんがありました。「この森にはいるな」とかいてありました。あかんぼうはけいじばんを見たけど、文字が読めなくて、森の中に入ってきました。その時は、夜になっていました。道もぐちゃぐちゃになっていて、あかんぼうはこまってしまいました。(後略)

(右) わたしの絵のタイトルは、「おかしなる森」です。おかしなる木があって、おかしはどんどん大きくなっています。ちっちゃかったおかしもどんどん大きくなっています。人間みたいになったおかしで集まっておまつりをしています。

【子どもの感想から】

(左) ぼくはめんぼうでバックをぬりました。たくさんぼつぼつをつけたら楽しくなりました。少し大変だったけどよくできてうれしかったです。

(右) ぼくのくふうしたところは、ティーやエルやエムの雲を工夫しました。色がきれいにぬれたのがよかったです。きょうりゅうがいろいろな木の実を食べようとしているところが自分ではよくかけたと思います。楽しかったです。



